

平成27年度始業式（H27. 4. 8）

○ はじめに～終業式（3／20）を振り返って

I 東日本大震災から4年が経過。

- ・ 一度で良いから浜通りの現状を自分の目で見てきてほしい。

II 「考えること」の重要性について～パスカルの言葉を手がかりに
人間は、自然のうちで最も弱い一本の葦にすぎない。
しかしそれは考える葦である。

L'homme n'est qu'un roseau, le plus faible de la nature ;
mais c'est un roseau pensant.

Man is no more than a reed, the weakest in nature. But he is a thinking reed. "
(Man is but a reed,)

教材をベースに考えることと併せて、自分の存在そのものについて、人間そのものについて、自分自身と他者の関わりについて、しっかりと考えることが大事
自分自身をしっかりと見つめて、遠い目標が固まり、現在から未来へ歩み出した人は、当然のことながら「自主自律」の精神を体現した人になるはず。自ら考え自らが主となって自らを律することができる、それが安積の生徒。

III 128期の担任の先生たちからは、「数学が鍵」。

129期、130期の君たちもこれに続いてほしい。と言うより、128期の先輩を超えるつもりで、この春休みから取り組んでほしい。

○ 3年生（129期）は最終学年（紫の学年章に心を引き締めた経験）
志望校への熱い思いが、目標達成にとって最も重要。今からしっかりと進路目標を定め、準備すべきことをしっかりと準備することが大事。

2年生（130期）は中堅学年としての強い自覚を。「受験勉強は3年から」は間違い。

○ 高く掲げた目標に対する思いが強ければ強いほど、達成可能性は高まる。君たちには力がある。切磋琢磨する仲間がいる。頼もしい先生がいる。恵まれた人的環境だが、高く掲げた目標に辿り着くためには、地道な努力の継続。そのベースにあるのが人間性であり、謙虚さと誠実さが肝要。

川はいつも流れていなくてはならぬ	継続
石は転がり続けなくてはならぬ (like a rolling stone)	
頭はいつも冷えていなくてはならぬ	冷静さ・集中
目はいつも澄んでいなくてはならぬ	謙虚・誠実・純粋
心はいつも燃えていなくてはならぬ	志を達成する強い気持ち

○ 昨年の夏季休業前集会（H26. 7. 18）

◎ 川島隆太氏（東北大学加齢医学研究所・所長）の講演
「脳科学から見た高校生と学力向上」

東北大学医学部卒業、
記憶や感情の制御、行動の抑制等、様々な高度な精神活動を司り、
脳の中の脳とも呼ばれる大脳の前頭前野 に注目
「人の気持ちを推測する」「物事を覚える」「自己をコントロールする」
「物事を創造する」

<川島氏の結論>

▲ スマホはせっかくの勉強成果を消去している

- 脳のディフェンス：スマホ1時間未満、ゲーム・テレビも短時間
11時就寝、睡眠時間6～8時間がベスト
→REM睡眠が学習成果を記憶、8時間以上もダメ
(東北大医学部等難関大学)

タイムマネジメントの問題

- 脳のトレーニング(前頭前野活性化に有効)

：音読・簡単な計算・会話 脳トレ

同趣旨の講演は、昨年、仙台二高でも実施、実際に生徒たちの多くが使用時間を意識し、「早寝・早起き・朝ご飯」を心がけるようになったと聞いている。今回の私の話を聞いて、君たちがどう判断するか、期待している。

- 平成25年4月調査は、仙台市内の中学生24,000名対象、結果は、同年12月18日公表、スマホの使用の中身までは踏み込んでいないが、平成26年4月調査「無料通信アプリの使用時間」等4項目追加、本年度中に分析・公表予定

仙台市・東北大「学習意欲の科学研究に関するプロジェクト」委員会
「スマートフォン・携帯電話の長時間使用が学力に悪影響を与える!」
→詳細は別紙、H27.3月末?仙台市教委HPにアップ)

全市立小学校124校(小5・小6の17,693名)
全市立中学校63校(中1～中3の25,831名)
43,524名

<分析結果概要>

「LINE、カカオトークなどの通信アプリの使用時間と勉強時間、
数学の平均点との関係进行分析」

市標準学力検査(数学)

- | | |
|----------------------|-------|
| ・家庭学習2時間以上、スマホ1時間未満 | 71点 |
| 3時間以上 | 59点 |
| ・家庭学習30分未満、スマホ持っていない | 61点 |
| 3時間以上 | 50点以下 |

→ 家庭学習30分未満の群の生徒は、家庭でほとんど勉強していない。
つまり、通信アプリの使用時間が長くなるほど生徒たちの中から、学校で習得した学習内容が消えて無くなったことを意味していると考えられる。

～また、平日一日当たりの通信アプリの使用時間の長さは、勉強時間や睡眠時間を介した影響力よりも圧倒的に強く、直接的に成績を下げる方向に作用している恐れがあることが分かった。これは分析を行った研究チームとしても、非常に衝撃的な結果。なぜなら、「通信アプリの使用によって勉強時間や睡眠時間が少なくなるから成績が下がるわけではなさそうだから。」

～今回報告の分析を含めて、一連の研究活動は現在も継続中。」